

就労系障害福祉サービス事業所 (身体・高次脳機能障害)における 作業療法士の実践

新潟県障害者リハビリテーションセンター
作業療法士 高野友美

【発表内容】

1. 当センター紹介
2. 復職に向けた就労支援の実践
3. まとめ

身体・高次脳機能障害での作業療法士の
強みとは？

施設紹介

～新潟県障害者リハビリテーションセンター～



概要

- 開所日 平成18年4月1日
- 施設の種類 障害者支援施設
(旧肢体不自由者更生施設)
- 設置主体 新潟県
- 経営主体 社会福祉法人 豊潤舎
- サービス 障害者総合支援法
機能訓練20名・生活訓練6名
生活介護6名・就労移行支援8名
施設入所支援30名

提供サービス —利用期間—

- 機能訓練 (1年6ヶ月)
- 生活訓練 (2年)
- 生活介護 (期間の定めなし)
- 就労移行支援 (2年)
- 施設入所支援

職員の配置状況

職種	人数
施設長	1人(作業療法士)
副所長	1人(理学療法士)
サービス管理責任者	1人
医師	2人(非常勤)
看護師	1人(常勤)
理学療法士	1人(常勤)
作業療法士	2人(常勤) 1人(非常勤)
言語聴覚士	1人(常勤) 1人(非常勤)
生活支援員(職業指導員等兼務)	7人(常勤) 6人(非常勤)
事務員	1人(常勤) 1人(非常勤)

利用者状況 — 疾患名 —

順位	疾患名	人数(%)
1	脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)	44(60.3)
2	脳卒中以外の脳損傷(脳炎、脳腫瘍など)	12(16.4)
3	パーキンソン病以外の神経変性疾患	5(6.8)
3	脳性麻痺	5(6.8)
5	整形外科疾患(脊髄損傷、骨折など)	3(4.1)
5	パーキンソン病	3(4.1)
7	内部疾患	1(1.4)

※平成18年8月から平成25年8月までの施設入所支援利用者

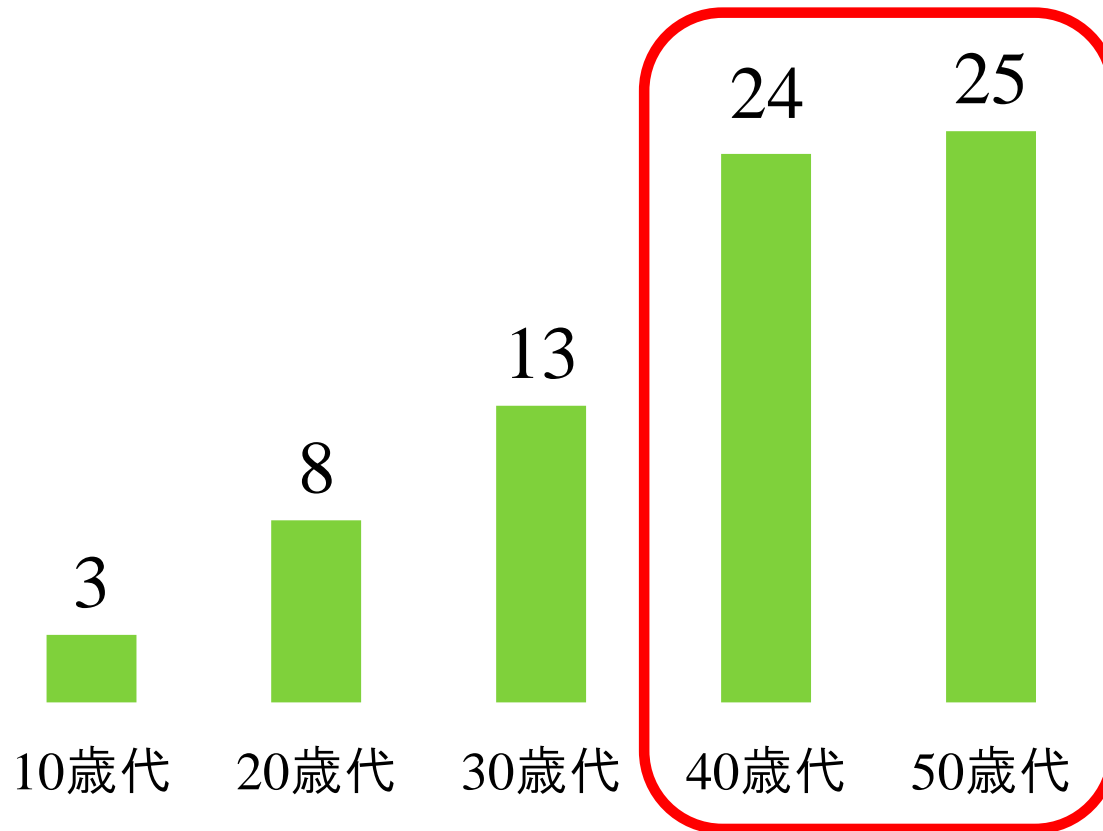
利用者状況 — 障害名 —

順位	障害名	人数(%)
1	高次脳機能障害	33(45.2)
2	左片麻痺	22(30.1)
3	右片麻痺	20(27.4)
4	構音障害	7(9.6)
4	四肢麻痺	7(9.6)
6	運動失調	6(8.2)
7	視力障害	2(2.7)
7	対麻痺	2(2.7)
9	下肢切断	1(1.4)

※平成18年8月から平成25年8月までの施設入所支援利用者

利用者状況 — 年齢 —

平均値42.8±標準偏差10.9歳



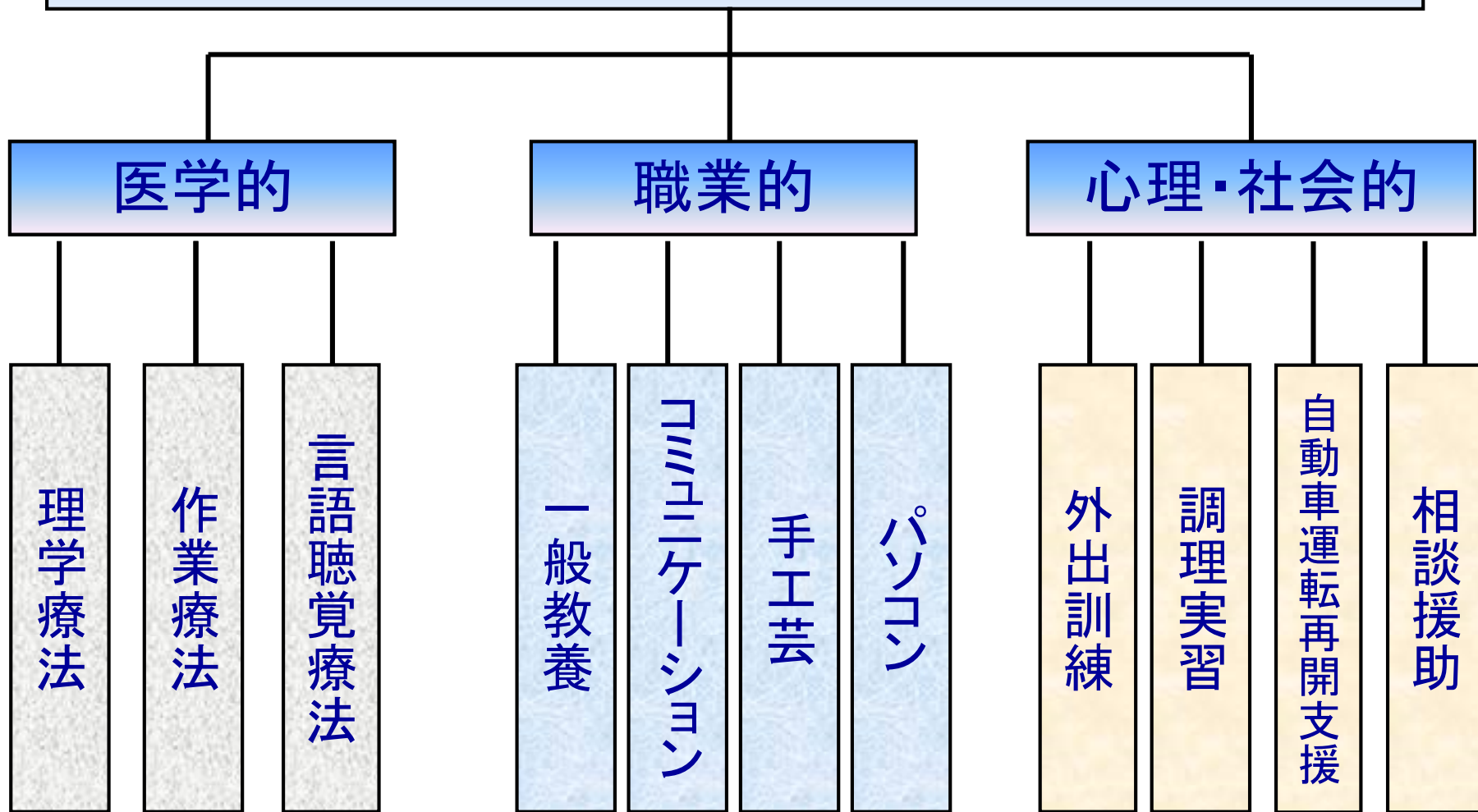
※平成18年8月から平成25年8月までの施設入所支援利用者

利用者状況 — 利用目的 —

順位	利用目的	人数(%)
1	就労	48(65.8)
2	身体機能向上	26(35.6)
3	一人暮らし	18(24.7)
4	日常生活動作能力向上	16(21.9)
5	高次脳機能向上	9(12.3)
5	自動車運転練習	9(12.3)
7	パソコンスキル向上	8(11.0)
8	公共交通機関の利用自立	3(4.1)
9	手段的日常生活動作能力向上	2(2.7)
10	資格取得	1(1.4)
10	グループホーム利用	1(1.4)

※平成18年8月から平成25年8月までの施設入所支援利用者

標準的なリハビリ内容(機能訓練・生活介護)



リハスタッフ

生活支援員

リハスタッフと生活支援員

医学的リハビリテーション

—理学・作業・言語聴覚療法—



▲理学療法



◀作業療法

▼言語聴覚療法



職業的リハビリテーション

—一般教養コース—

～目的～

- 認知機能(記憶力、注意力等)の向上
- 代償手段の獲得 etc.

～訓練内容～

- 注意、記憶課題
- スケジュール管理
- メモリーノートの活用 etc.



▲ 認知機能課題

職業的リハビリテーション ーコミュニケーションコースー

～目的～

- 言語・発声機能の向上
 - 代償手段の獲得
- etc.

～訓練内容～

- 言語課題
 - ー失語症ドリル
 - ースピーチリハビリ
- etc.



▲ 言語課題



▲ 発声練習

職業的リハビリテーション

－手工芸コース－

～目的～

- 集中力向上
 - 構成能力の向上
 - 巧緻性の向上
 - 趣味的活動への拡大
 - 生産活動への参加
- etc.

～訓練内容～

- 和紙・紙細工
 - 手芸(刺し子、刺繍)
 - タイル細工
 - マクラメ、クラフトテープ手芸
 - 塗り絵、水彩画、ちぎり絵
 - 編み物、紐結び
 - ステンシル、木工細工、パズル
 - ボタン付け、アイロンかけ
 - 版画、切り絵
- etc.



職業的リハビリテーション ーパソコンコースー

～目的～

- パソコン資格取得
- 就職に必要な技術の習得
- 認知機能の向上
- 趣味的活動の拡大
- インターネット情報の活用

etc.

～訓練メニュー～

- Word
- Excel
- Power Point
- 高次脳機能バランサー
- インターネット
- タイピング練習

etc.



心理・社会的リハビリテーション

－外出訓練－

～目的～

- 移動範囲の拡大
- 社会生活能力の確認
- 福祉サービスの活用

～支援内容～

- 公共交通機関の利用
(バス、JR)
- エスカレーター、エレベーターの利用
- 階段、段差の移動
- 悪路の移動
- 横断歩道の往来確認

etc.



▲ 公共交通機関の利用

心理・社会的リハビリテーション

—自動車運転再開支援—

～目的～

- 自動車運転再開
自動車運転免許更新
免許再取得

～支援内容～

- 運転再開に向けた相談・アドバイス
- 高次脳機能評価・ドライブシミュレーター評価
- 自動車学校での実車評価同行
- 運転訓練(シミュレーター・自動車学校)
- 免許センターでの免許更新手続き支援

etc.

心理・社会的リハビリテーション —自動車運転再開支援—

30歳代 男性
脳出血 右片麻痺、
高次脳機能障害

ドライブシュミレーターを
使用しての練習の様子



心理・社会的リハビリテーション

—自動車運転再開支援—



心理・社会的リハビリテーション

－相談援助－

～目的～

- 退所後、円滑な社会生活が送れるような相談援助
- 他専門機関及び関係機関と連携を図り地域移行・就労移行に向けた相談援助 etc.

～支援内容～

- 障害年金受給申請
- 住宅改修への助言
- 補装具、福祉用具の作成
- 地域移行の相談
- 住宅探し
- 介護保険の活用
- 関係機関とのサービス調整
- 就職相談 etc.



自宅での移動の確認



服薬管理



金銭管理



グループワーク

出展(国立障害者リハビリ
テーションセンターHP)

復職に向けた就労支援

【事例】

- A様 50代前半 男性
- 診断名：脳出血
- 障害名：右片麻痺
高次脳機能障害
(中等度失語症、注意障害)
- 発症日：X年Y月Z日

【事例】

・現病歴:

X年Y月Z日

仕事中に構音障害、右上下肢のしびれ出現し救急搬送

Y+1ヶ月

回復期病院転院

Y+6ヶ月

自宅退院。外来リハ、デイサービス、訪問リハを利用
自宅退院から1年10カ月後(発症から約1年4ヶ月後)

当センター利用開始(施設入所支援・機能訓練)

- ニーズ：復職したい
- 社会的背景：
 - 持ち家で3人暮らし(妻、娘と同居)
 - 職業：システム情報関連会社の課長
〔 管理職で部署を統括していた
作業はパソコン業務が中心 〕
 - 身体障害者手帳 1種1級
 - 介護保険 要介護1

【評価（心身機能）】

・麻痺

右上下肢に中等度の麻痺あり

〔 上肢は補助的な使用が難しい
下肢は曲げ伸ばしの大きな動きは可能だが滑らかな動きは難しい 〕

・高次脳機能面

失語症：理解面は日常会話や作業指示はおおよそ可能

表出面は単語～短文レベルだが錯語を認め、表出内容が把握出来ないことも少なくない。

注意障害：情報量が増えると見落としが増える傾向あり。

病識低下：仕事にはすぐにでも復帰できていると思っている。

うまくできないことに対してはイライラする場面あり。

【評価（生活動作）】

屋内移動・屋外移動	自立（短下肢装具・T字杖使用） 歩行速度低下のため横断歩道を渡りきれないところあり。
食事	自立
整容	自立
排泄	自立
入浴	自立（入浴用装具使用）
洗濯	自立
服薬管理	自立
金銭管理	自立
スケジュール管理	自立

【職場とのやり取り①】

初回面談の内容(センターにて実施し、ご本人とOT出席)

- ・顔合わせ、当センターの紹介
- ・身体機能面、高次脳機能面、ADL状況、センターでのリハビリ内容について説明
- ・ご本人の意思説明と職場の意向確認

ご本人

- 早期復帰希望
- 管理者としての復帰想定

職場

- 復帰に向けた準備が必要
- 一般職員としての復帰
- 勤務地は自宅最寄りの事業所(データ入力)

→想定とは異なり黙り込んでしまう。納得できない様子を見せるも最終的には「わかりました。よろしく願います。」と返答する。

- ・復帰に向けて取り組めそうな課題について検討

→通勤手段の獲得とパソコン操作練習に取り組み、どの程度可能か確認し報告することとなる。

【支援目標】

長期目標：復職

短期目標：通勤手段の検討・獲得
パソコンスキルの向上

個別リハビリ

- 歩行速度の改善
- 自動車運転再開
- 公共交通機関の利用

職能訓練 (パソコンコース)

- 文章入力、Word・Excelの基本操作の復習

【経過①—1 通勤手段の検討】

身体機能面の改善

歩行速度の大きな改善には至らず…。

自動車運転再開支援

右上下肢に中等度の麻痺あり

注意障害：情報量が増えると見落としが増える傾向あり

OT

- 屋内外移動自立
- 生活管理自立
- 机上評価にて運転再開の基準値を満たしている

医師

- 自動車学校でのドライブシミュレーター、改造車（左アクセル、ハンドルノブ、方向指示器延長バー）での実車評価の指示

自動車学校

- 左手足での操作練習と早めの状況判断と対応を練習し、学習効果を見て判断が必要

【経過①】-2 通勤手段の検討】

公共交通機関の利用

外出訓練実施

外出計画

- 自宅、センター最寄り駅の検索可能
- スマホを活用して時刻表の検索可能
- 到着時刻に合わせて計画立案可能

外出評価

- 駅内の移動可能
- 電車の乗降動作時に段差あり練習必要
- トラブル時はスマホにて連絡可能

→練習で動作安定しJR利用自立(利用開始から13か月)

施設入所支援を終了し、通所利用に変更(通勤の模擬練習)

→自宅最寄り駅から職場までの通勤経路を確認。

歩行速度の低下から横断歩道を渡り切れない交差点があったが別の経路を利用することで回避可能。

 **通勤手段の決定**

【経過② 業務内容の検討】

パソコンコース

文章の入力

ひらがな・漢字の入力は比較的可能
カタカナ・拗音が苦手



ローマ字入力表
の活用

Word、Excel操作

Word・Excel基本操作可能
応用操作は困難
分からないときは支援を求めること可能



基本操作の
定着を図る
(事務文章作成 等)

【職場とのやり取り②】

2回目面談の内容(復職先にて開催し、本人とOT出席)

※懐かしい顔ぶれに終始笑顔が見られる。初回よりも早期復帰への焦り軽減。

・職場での訓練状況の説明

言葉や文章での状況説明が苦手
聴いた言葉を覚えておくことが苦手



作業指示は
文章で伝える

・担当業務の確認(実際に業務で使用するソフトを操作)

作業内容

- 写真添付
- 言葉は選択肢から選ぶ

**失語症の影響が
少ない作業！！**

・職場環境の確認

職場内は段差や坂道があるが、現在の身体機能で移動は問題なし。

・復帰に向けての課題共有

自動車運転訓練の学習効果を見て通勤手段を明確化する

リハビリ出勤に向けた調整

【経過③ 業務内容の検討】

パソコンコースにてデータ入力課題を訓練に加えて実施。

→課題の正答率など職場に報告し、2回目の職場訪問での操作の様子を見ると業務としては問題なさそうであると返答をいただく。

NO. 0450

「仕事とパソコン」読者アンケート

フリガナ ヨコテ キョウコ

- お名前 横手 京子
- ご住所 〒 231-0045
神奈川県横浜市中区伊勢佐木町1-6-1
- 電話番号 045-411-8876
- メールアドレス
rbvwf@ferris.ac.jp

● 問1 あなたはこの本を何でお知りになりましたか。

1. 書店で実物を見て 2. チラシを見て

3. 書店店員に紹介されて 4. 学校から紹介されて

5. 知人に紹介されて 6. その他

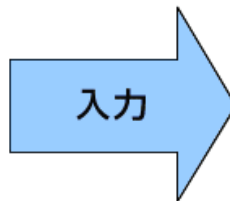
● 問2 この本はあなたのお役に立ちましたか。

1. 役に立った 2. ふつう 3. 期待はずれだった

● 問3 あなたは弊社の出版カタログの送付をご希望されますか。

希望する 希望しない

ご回答ありがとうございました



やっぴあよう！パソコンエンジニア入力

アンケート入力

NO. 0450

フリガナ①

名称②

〒③

住所④

電話番号⑤

メールアドレス⑥

問1⑦

問2⑧ 1.役に立った 2.ふつう 3.期待はずれだった 回答なし

問3⑨ 希望する 希望しない

 **復帰後の業務内容が決定**

【経過④ 通勤手段の再検討】

自動車運転再開

自動車学校

- 左手足での操作が安定
- 早めの状況判断と対応が可能

OT

- 公道での運転に同席
- 操作がスムーズになっており、減速のタイミングが早く、安全確認に時間を設けられており、十分対応が出来ている

医師

- 運転再開可能と判断し、診断書作成




**通勤手段は公共交通機関から
自動車通勤に変更**

【経過⑤ リハビリ出勤】

週3日半日→週3日フルタイム→週5日フルタイムでのリハビリ出勤を実施。段階的に勤務時間を延長し、徐々に仕事と生活に慣れていただく。

→職場からは遅刻なく通えており
業務内容にも問題はないと報告あり。
ご本人からは疲労感は以前よりも少なくなり
慣れてきたと話あり。

 **復職**

当センター利用開始から約21か月で退所



【作業療法士の強み】

身体機能面、認知機能面（注意力、記憶力等）の評価から、対象者の能力を生かした働き方を提案できる

- ・得意・不得意とする作業を把握し、できる業務を予測し、職場の方と検討ができる。
- ・業務を遂行しやすい代償手段の提案ができる。

職場環境の整備について助言ができる

- ・職場内の段差解消や手すりの設置、福祉用具使用について助言ができる。

職場の方の障害理解に働きかけができる